

Title	中級語彙の教え方に関する一考察：「発達」と「発展」の場合
Sub Title	
Author	村上, 絢乃(Murakami, Ayano)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2021
Jtitle	日本語と日本語教育 No.49 (2021. 3) ,p.81- 95
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	調査報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20210300-0081">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20210300-0081</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 中級語彙の教え方に関する一考察

—「発達」と「発展」の場合—

村 上 絢 乃

## 1. はじめに

日本語教育における語彙指導では、特に中級以降になると類義語の理解およびその指導が重要となる。共通の意味特徴を持っている類義語の異同を正しくとらえ、運用する力を身につけることはさらなる表現・理解の向上につながる。

しかし、類義語は意味が似ているからこそ、その使い分けを明確にすることは難しい。

また、教育場面では「語の辞書的な意味」だけでなく「語の用法」をとらえることが重要である。実例を挙げ、使用できる場合とできない場合を分かりやすく説明する必要がある。そこで、本稿では類義語「発達」と「発展」について調査し、この二語の導入方法を試案する。

## 2. 各種辞書による意味記述

まず、各種辞書による意味記述から、「発達」と「発展」の意味が重なる点と異なる点について検討する。

以下に、国語辞典『広辞苑』『大辞泉』による記述を挙げる。

『広辞苑』

発達：①生体が發育して完全な形態に近づくこと。「筋肉の一」

②進歩してよりすぐれた段階に向かうこと。「産業の一」「一した低気圧」

③ [心] 個体が時間経過に伴ってその心的・身体的機能を変えてゆく過程。遺伝と環境とを要因として展開する。

発展：①のびひろがること。展開。「事態が思わぬ方向に一した」

②さかえゆくこと。「経済の一」

③手広く活動すること。特に異性との交際についていう。

### 『大辞泉』

発達：①からだ・精神などが成長して、より完全な形態や機能をもつようになること。「心身が一する」

②そのものの機能がより高度に発揮されるようになること。

「文明が一する」

③そのものの規模がしだいに大きくなること。「一した低気圧」

発展：①物事の勢いなどが伸び広がって盛んになること。物事が、より進んだ段階に移っていくこと。「経済が一する」「大事件に一する」

②異性関係や遊蕩について、活動の範囲を広めること。「だいぶご一のようですね。」

どちらの辞書にも「発達」には「体や心が成長して、完全な形態に近づくと」という意味の記述がある。一方、「発展」は「伸び広がる」や「さかえる」「盛んになる」などの言葉が使われている。

上記の意味記述に加え、『大辞泉』には以下のような説明も見られた。

「最近急速に発達（発展）した都市」「文化の発達（発展）」など、規模が大きくなったり、高い程度に進んだりする意では相通じて用いる。

「発達」は成長して完成した状態に近づく意。「心身の発達」「嗅覚の発達した犬」「発達した低気圧」など、生物の身体や器官の機能、自然現象については「発達」を使う。

「発展」は物事の勢いや力などが増し広がっていく意。「会社の発展に尽力する」「御発展を祈ります」「事件は意外な方向に発展した」などでは「発展」を使う。

確かに、先に見た辞書の記述を見ると、「発達」には「進歩する」「優れた段階に向かう」「規模が次第に大きくなる」と書かれており、「発展」には「より進んだ段階に移る」という記述がある。このような意味を表したい場合、二語の意味が重なることがわかる。

次に、類語辞典の記述内容について検討する。以下は『表現類語辞典』『ちがいがわかる類語使い分け辞典』による記述である。

#### 『表現類語辞典』

発達：心身・能力などが成長し、物事がより高度に進歩すること。

発展：より高度な段階に進み、拡大、成長していくこと。「発展」は人間の心身・能力が成長することには使えないから、「発達」より意味が狭い。

#### 『ちがいがわかる類語使い分け辞典』

基本の意味：より高度な段階に進むこと

「発達」は、物事の仕組み・組織が充実して、規模が大きくなったり、内容的により高度なものになったりすること。

「発展」は、高い段階や先の段階に進む意も含むが、規模・領域が広がることにより注目している。

これらをまとめると、「発達」と「発展」はどちらも「より高度な段階に進む」という意味がある点で共通している。そして、異なる点は「発達」は「心身が成長する」ことを言う場合に使われるが、「発展」にはその用法がないという点であろう。

また、「規模や領域が広がる」「拡大する」ことを言う場合には「発展」が使われると考えられる。

では、実際にこの二語はどのような語と共起するのだろうか。コーパスを使用して調査した。

### 3. コーパスによる共起表現の調査

ここでは、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』<sup>1</sup>を使用して、「発達」と「発展」がどのような語と共起するか考察する。

#### 3.1 名詞 + が + 「発達する」「発展する」

まず、「発達」「発展」が動詞として使われる場合の共起例を検討する。

表1は「発達する」「発展する」と共起する名詞を調査した結果である。中でも用例数が多かったものを示している。

この結果を見ると、「発達する」「発展する」ともに「経済がー」「技術がー」が上位にある点で共通している。

異なる点は、「発達する」は「筋肉がー」が6例、「知能がー」が5例あったことである。辞書の記述にもあったように、やはり心身に関する語彙との共起例が見られた。表1で示した語の他にも「頭」「血管」「精神」等の語との共起例があったが、「発展する」にはこのような例がなかった。

さらに、「発達する」は「干潟」「台風」「亜熱帯低気圧」など自然現象に関する語との共起例が20例（表外）あったのに対し、「発展する」がこれらの語彙と共起する例は見られなかった。

一方、「発展する」は「日本がー」が3例あり、表1に示した語の他にも「アメリカ」「中国」「浅草」等、国や地名との共起例が8例あった。し

表1 (括弧内の数字はコーパスから抽出された全用例数を示す。)

発達する (466)	用例数	発展する (263)	用例数
技術がー	9	経済がー	20
科学がー	7	産業がー	7
経済がー	7	技術がー	6
科学技術がー	6	文明がー	4
筋肉がー	6	企業がー	4
都市がー	6	都市がー	3
文化がー	5	港町がー	3
知能がー	5	日本がー	3
交通がー	5	関係がー	3
交通機関がー	5	会社がー	3
産業がー	5	研究がー	3
農業がー	4		
方法がー	4		
資本市場がー	4		

かし、「発達する」にはこのような例は見られなかった。

### 3.2 「発達」「発展」＋助詞＋動詞

次に、「発達」「発展」が名詞として使われる場合について検討したい。動詞との共起で数が多かった語を表2に示す<sup>2</sup>。

「発達」は441例中「一を遂げる」が46例(10%)で最も多く、次に「一を図る」が32例(7%)であった。「発展」についても「一を遂げる」が500例中56例(11%)で最多であり、その次に「一を図る」が43例(8%)という結果になり、上位2語が共通していた。

その他、「一を促す」「一に資する」「一に寄与する」などが上位にある点も共通していた。

表 2

発達 (441)	用例数	発展 (500)	用例数
一を遂げる	46	一を遂げる	56
一を図る	32	一を図る	43
一を促す	22	一に寄与する	31
一が遅れる	12	一に貢献する	17
一に資する	9	一を支える	16
一を促進する	9	一を目指す	13
一を妨げる	8	一に資する	12
一を阻害する	7	一につながる	12
一に合わせる	6	一を促す	11
一に応じる	6	一をする	9
一に寄与する	6		
一を示す	6		
一が見られる	6		

「発展」については、「一に貢献する」が17例（3%）で上位にあったが、「発達」は2例だけであった（表外）。その他、「発展」は「一に尽くす」「一に尽力する」「一に取り組む」（各3例、表外）との共起例があったが、「発達」には見られなかった。

### 3.3 名詞 + の + 「発達」「発展」

続いて、名詞との共起例について検討する。数が多かった語を表3に示す<sup>3</sup>。

辞書の記述にもあったように、「発達」は「子供の一」「脳の一」「知能の一」など生体や心身に関わる語彙が上位にある。また、「干潟の一」「太平洋高気圧の一」など自然の現象に関する語との共起例は5例あったが（表外）、「発展」には見られなかった。

表 3

発達 (500)	用例数	発展 (500)	用例数
子供のー	32	経済のー	18
脳のー	19	社会のー	14
知能のー	11	産業のー	11
心身のー	9	科学技術のー	10
科学技術のー	9	資本主義のー	8
心のー	8	企業のー	6
技術のー	7	日本のー	6
産業のー	7	生産力のー	6
人間のー	6	文化のー	6
情報伝達技術のー	6	今後のー	6
能力のー	5	地域経済のー	5
メディアのー	5	事業のー	5
通信技術のー	4	町のー	5
幼児のー	4	経済社会のー	5
言葉のー	4	科学のー	4
		社会経済のー	4
		地域のー	4

一方、「発展」はやはり心身に関わる語彙と共起せず、「経済のー」「社会のー」などの語彙が上位にある。また、「日本のー」が6例あり、表3で示した語の他に「アメリカのー」「上海のー」など国や都市、地域の名詞と共起する例が12例あったが、「発達」にはこれらの語彙と共起する例は見られなかった。

### 3.4 形容詞＋「発達」「発展」

最後に、形容詞が「発達」「発展」を修飾している場合について検討す



表 4

発達 (66)	用例数	発展 (163)	用例数
目覚ましい—	7	目覚ましい—	32
著しい—	6	新しい—	17
新しい—	2	著しい—	16
		素晴らしい—	5
		高い—	2

る。まず、「い形容詞」との共起で数が多かった例を表 4 に示す。

これを見るとわかるように、どちらの語も「目覚ましい—」「著しい—」「新しい—」が上位にあり、大きな差異は見られなかった。

では、「な形容詞」の場合はどうだろうか。共起数が上位の語を表 5 に示す。

「な形容詞」が修飾している例を見ると、「健全な—」が「発達」59 例 (51%)、「発展」123 例 (24%) で最も多いという点で共通している。

異なる点は「発達」は「正常な—」「完全な—」との共起例が見られるが、「発展」には見られないことである。これは、「発達」には「心身が成長し、完全な形態に近づくこと」という意味があるからではないだろうか。

一方、「発展」は速さを表す語（「急速な—」「急激な—」）や「安定的な—」「順調な—」が上位にあるという特徴があった。

表 5

発達 (115)	用例数	発展 (493)	用例数
健全な—	59	健全な—	123
正常な—	6	急速な—	45
知的な—	4	急激な—	14

急速な—	4	安定的な—	9
完全な—	2	経済的な—	9
合理的な—	2	飛躍的な—	8
自然な—	2	円滑な—	7
飛躍的な—	2	新たな—	5
潜在的な—	2	順調な—	5
		サステイナブルな—	5
		このような—	4
		革新的な—	3

#### 4. 調査結果

ここまでの調査の結果を以下にまとめる。

##### 「発達」

- (1) 「体や心が成長し、完全な形態に近づくこと」を言う場合に使われ、心身に関する言葉とともに使用する。  
例：筋肉の発達、筋肉が発達する
- (2) 自然の現象について言う場合にも使う。  
例：気圧の発達、気圧が発達する
- (3) 国名や都市名とは共起しにくい。  
例：△日本の発達、△日本が発達する
- (4) 共起しやすい動詞および修飾語
  - ① 発達＋助詞＋動詞  
例：「一を遂げる」「一を図る」「一を促す」「一を促進する」
  - ② 「名詞＋の＋発達」  
例：生体や心身に関する語、その他「技術のー」「産業のー」
  - ③ 「い形容詞＋発達」  
例：目覚ましい、著しい

## ④「な形容詞＋発達」

例：健全な、正常な

## 「発展」

- (1) 生体や心身、自然現象に関する語彙とは共起しない。  
 (2) 「広がる」「栄える」「盛んになる」という意味がある。国名や地名とも共起する。

例：日本の発展、日本が発展する

- (3) 共起しやすい動詞および修飾語

## ①「発展＋助詞＋動詞」

例：「一を遂げる」「一を図る」「一に寄与する」「一に貢献する」

## ②「名詞＋の＋発展」

例：「経済の一」「社会の一」「産業の一」「技術の一」「企業の一」

## ③「い形容詞＋発展」

例：目覚ましい、新しい、著しい

## ④「な形容詞＋発展」

例：健全な、急速な、急激な

ここまで「発達」「発展」の辞書的な意味と実際の使用傾向を考察した。では、中級レベル以上の日本語学習者は実際にこの二語をどのように使用しているのだろうか。より効果的な語彙の提示方法を検討するため、学習者の使用傾向を調査した。

## 5. 学習者の使用傾向

ここでは、「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」(2011)を使用し、日本人学生と日本語学習者の使用傾向を比較する<sup>4</sup>。

まず、「発達」と共起する語を表6に示す。

表6 (括弧内はデータベースから抽出された「発達」の全用例数を示す。)

	発達		
	日本 (23)	韓国 (10)	台湾 (14)
インターネット	13	7	10
技術	3		
科学技術	1		1
情報通信技術	1		
IT 技術	1		
通信		1	
その他	4	2	3

「インターネット」が第1位となっているが、これは課題文がインターネットに関する内容であったことが影響していると考えられる。しかし、その他の語を見てみると、日本人大学生の作文には「技術」や「科学技術」等の語との使用例があったのに対し、韓国、台湾の大学生の作文にはほとんど見られなかった。

次に、「発展」と共起する語を見てみる。結果を表7に示す。

こちらも「発達」と同様に「インターネット」が第1位となっている。そして、日本と台湾の作文にはその他の語彙、例えば「技術」「科学技術」「文化」等との共起例が見られたが、韓国の作文は「発展」の使用例自体が少なかった。

それぞれの前後の文を読み、内容を確認したところ、どの作文も「発達」と「発展」を「より高度の段階に進む」「規模が大きくなる」という意味で使用しており、共起する語彙の選択に誤りはなかった。「発達」と「発展」の基本的な意味はおさえていると思われる。

以上の結果から、「発達」「発展」を導入する際、基本的な意味、用法の提示に加え、文の中で自由に使えるようになるための工夫が必要であると

表7 (括弧内はデータベースから抽出された「発展」の全用例数を示す。)

	発展		
	日本 (13)	韓国 (4)	台湾 (13)
インターネット	3	2	6
技術	3	2	
科学技術	2		
情報技術	1		
通信技術			1
経済			1
文化	1		1
その他	3		4

考える。例えば、共起しやすい語彙も一緒に覚えられると良いのではないだろうか。このようにすれば、表現力の向上にもつながり、より効果的であると考えられる。そこで、次項では実際の導入例や練習方法を検討したい。

## 6. 例文試案とまとめ

ここまでの結果を踏まえて、まず意味・用法の提示と例文を試案する。

【1】それぞれの語の特徴を表す用法と例文を提示する。

### 「発達」

①「体や心が成長し、十分な形に近くなる」と言う場合、「発達」を使う。

⇒筋肉、脳、知能、心、心身、子供＋発達

例：子供の時にたくさん運動すると、脳の発達にいい影響があるそうだ。

十分な食事と睡眠は健康な体や心の発達に欠かせない。

②自然に関係があることについて、それが大きくなったり、レベルが上

がったりすると言いたい時、「発達」を使う。

⇒台風、雨雲、低気圧＋発達

例：今夜は関東南部で雨雲が発達し、強い雨が降るでしょう。

### 「発展」

①「広がって大きくなる」「盛んになる」と言う場合、「発展」を使う。

⇒企業、会社、社会、関係＋発展

例：トヨタは日本の代表的な企業として発展してきた。

社会の発展のために、教育は重要である。

②国や都市の名前と一緒に使う場合は「発展」の方が自然である。

⇒日本、アメリカ、上海＋発展

例：東京の（○発展／△発達）とともに、人口が増加した。

### 【2】両方使える例を提示する。

「レベルが上がって、より良くなる」と言いたい場合は、どちらも使える。

⇒経済、技術、科学、都市、産業＋発達、発展

例：戦後、日本は経済が（発展／発達）し、豊かになった。

都市の（発展／発達）とともに、人口が増加した。

上記のように、意味・用法のポイントと例文を提示した後、以下のよう  
な練習問題を解きながら使い方を確認する。

#### 【練習問題】

どちらの言葉が適切か選んで、○をつけなさい。どちらも使える場合は両方に○をつけなさい。

1. 技術が（発達／発展）して、私たちの生活は便利になった。
2. 遊ぶことは子どもの（発達／発展）に必要だ。

3. ソニーは初め社員が 20 人程度しかいない小さな会社だったが、その後世界的な会社へと（発達／発展）した。
4. 熱帯低気圧が（発達／発展）したものを台風と呼ぶ。
5. 科学の（発達／発展）によって、私たちの生活は変化した。
6. ハリウッドはアメリカの映画産業の中心地として（発達／発展）してきた。

このように文を読みながら使い方を確認すれば、使用場面がよりイメージできるのではないだろうか。さらに、共起しやすい語彙も一緒に覚えることができる。

以上のように導入例を試案したが、例文を提示する際には、学生の学習段階に合わせて語彙を調整する必要がある。その点は今後の課題としたい。

### 注

- 1 知恵袋、ブログ、国会会議録の用例を除く。
- 2 「発展＋助詞＋動詞」の用例は全 1,322 例あり、そのうち 500 例を調査対象とした。
- 3 「名詞＋の＋発達」は用例数が全 1,046 例、「名詞＋の＋発展」は用例数が全 1,852 例であった。そのうち、500 例を調査対象とした。
- 4 このデータベースは日本人大学生（134 名）と日本語を学ぶ大学生（韓国 57 名、台湾 55 名）の作文を調査したものである。作文の執筆者は同一の課題文を読み、辞書などを使用せず、制限時間 60 分、800 字程度で執筆している。なお、韓国と台湾の学生に関しては、日本語能力試験 2 級以上の学習者が対象となっている。

### コーパス

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」（2011 年 3 月）〈<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/terms.html>〉

### 参考文献

- 岩田一成編（2018）『語から始まる教材作り（現場に役立つ日本語教育研究）』くろしお出版  
 大曾美恵子（2005）「コーパスによるコロケーションの特定—日本語学習辞書の充実を目指し

- て」影山太郎編『レキシコンフォーラム NO.1』, ひつじ書房, 11-23
- 大曾美恵子 (2006) 「日本語コーパスと日本語教育 (特集コーパスと日本語教育—現状と課題)」  
『日本語教育』130, 3-10
- 中溝朋子・坂井美恵子・金森由美・大岩幸太郎 (2011) 「漢語名詞「進歩」と「向上」のコロケーションの異同について」『大学教育』8, 88-95
- 森篤嗣編 (2016) 『ニーズを踏まえた語彙シラバス (現場に役立つ日本語教育研究)』くろしお出版

### 国語辞典

- 新村出編 (2018) 『広辞苑』第七版 岩波書店
- 松村明編 (2012) 『大辞泉』第二版 小学館
- 松村明編 (2019) 『大辞林』第四版 三省堂
- 山田忠雄他編 (2005) 『新明解国語辞典』第六版 三省堂

### 類語辞典

- 大野晋、浜西正人編 (2018) 『類語国語辞典』第二十五版 角川書店
- 小学館辞典編集部 (2003) 『使い方の分かる類語例解辞典』小学館
- 藤原与一他編 (2009) 『表現類語辞典 新装版』東京堂出版
- 松井栄一編 (2008) 『ちがいがわかる類語使い分け辞典』小学館